

抹茶生産今年550トン超へ

全国2位射程に

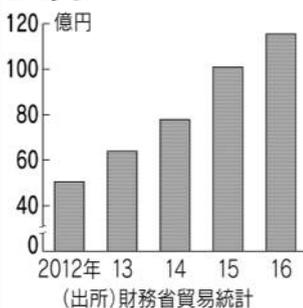
静岡県の抹茶生産量が今年、県が目標としている550トンを超えることが確実となった。100ト近い増産が見込めるため、都道府県別生産量で現在の全国3位から2位への浮上が射程に入ってきた。海外での抹茶人気を受けて、生産拡大や新規生産に乗り出す動きが加速している。県も転作を含めた支援策で後押ししている。

茶の有機栽培を手掛けとなる「てん茶」の生産者葉っぱ向島園（藤枝）を始めた。島田市では若手は今年、抹茶の原料 手農家がグループでてん



抹茶用の茶は一定期間、覆いをする必要があり、手間がかかる

緑茶の輸出額は拡大基調にある



県内、100ト近く増産 海外で人気高まる

茶生産の株式会社「Matcha Organica Japan」を昨年末に設立した。無農薬茶の輸出を手掛ける流通サービズ（菊川市）も生産を拡大している。

静岡県のてん茶生産量は2016年で480ト（県推計）と、京都府の約1000ト、愛知県の500ト強に次ぐ全国3位だった。今年の県内てん茶の増産量は100ト近くになるとみられる。京都や愛知は生産拡大の余地が小さいため、愛知を抜いて2位に浮上する可能性が高くなっている。

県も品種転換で国の奨励補助金を活用して、抹茶生産を支援している。抹茶に適している「つゆひかり」「おくみどり」などへの転換が主流となっている。

生産拡大の背景には抹茶

茶需要の拡大がある。「今年には海外からの抹茶の注文が毎月増えている状態」と米国に現地法人を持つ杉本製茶（島田市）

の杉本博行社長は語る。抹茶は一般的に単価が高い。「海外の需要家はより高級な日本の抹茶を求めている」（杉本社長）

「茶どころ静岡」といっても、県内では高齢化で輸出量はほぼ横ばいの4100トだった。1キダ。輸出をにらんだ意欲

静岡県のてん茶生産量は2016年で480ト（県推計）と、京都府の約1000ト、愛知県の500ト強に次ぐ全国3位だった。今年の県内てん茶の増産量は100ト近くになるとみられる。京都や愛知は生産拡大の余地が小さいため、愛知を抜いて2位に浮上する可能性が高くなっている。

「茶どころ静岡」といっても、県内では高齢化で輸出量はほぼ横ばいの4100トだった。1キダ。輸出をにらんだ意欲

の杉本博行社長は語る。抹茶は一般的に単価が高い。「海外の需要家はより高級な日本の抹茶を求めている」（杉本社長）

静岡県のてん茶生産量は2016年で480ト（県推計）と、京都府の約1000ト、愛知県の500ト強に次ぐ全国3位だった。今年の県内てん茶の増産量は100ト近くになるとみられる。京都や愛知は生産拡大の余地が小さいため、愛知を抜いて2位に浮上する可能性が高くなっている。

「茶どころ静岡」といっても、県内では高齢化で輸出量はほぼ横ばいの4100トだった。1キダ。輸出をにらんだ意欲

の杉本博行社長は語る。抹茶は一般的に単価が高い。「海外の需要家はより高級な日本の抹茶を求めている」（杉本社長）